



Title: ありがたいこと二つ

❖ 寄贈について

先月、青森市に住むT・Tさんから電話が掛かってきました。蔵書を整理しようと思っているが、出身地の大館市の図書館で引き取っていただけるものがあれば寄贈したいとのことでした。たまたま11月に青森に行く用事があるので、その際にお邪魔して見せていただくということになり、つい先日伺いました。今回はたまたま私用のついでということで訪問することができましたが、普通はこんなことはできません。

以前にも少し書きましたが、図書館の蔵書は満杯状態なので、よほど厳選して受け入れる必要があるのです。また経費的にも人員的にも、わざわざ出張する余裕が乏しいこともあります。ですから、寄贈の希望をいただいても、書名等のリストがあれば図書館が欲しいものだけを選んだ上で（しかも元払いで）、あるいは受け入れの可否は図書館の判断に任せてもらうことを確認した上で送ってもらうことになります。

Tさんの場合は、事前に寄贈したい蔵書の写真を送ってくれており、その中の美術全集を希望する館があったので、せっかく行ったのに何も引き取らずに帰るというお互いにばつの悪い思いをする心配もなく訪問できました。Tさんは御年80歳とは思えないお元気さで、話しぶりもたいへん気さくな方でした。音楽や美術、俳句、植物など多趣味な様子も書棚から垣間見え、アマチュアでヴァイオリンも弾いていたとのこと。本好きな人のお宅に行って、本や趣味の話をする時間の楽しいことといったら。図書館員としてはともかく、個人的にはこういう時間をたくさん持てればうれしいのに、とつくづく思います。

ちなみに、大館市立図書館が受贈の対象としているのは、発行から3年以内のもの、および郷土資料というのが原則です。こう書くとそれ以外お断りみたいですが、場合によってはそうでもなかったりするのが悩ましいところです。大変歯切れが悪い説明ですね。とにかくまずは連絡をいただければ、ということです。何度でも言いますが、寄贈は本当にありがたいことなのです。

❖ 後援会の表彰二題

大館市立中央図書館後援会は、平成3年発足といたしますから今年で23年の歴史をもつ団体です。この間中央図書館は、後援会から物心両面にわたる支援をいただきました。支援だけでなく、図書館を舞台に自主的な事業を実施していることも後援会の素晴らしい点です。多彩な講師を迎えての「文化講演会」や、各地の図書館などへバスツアーを行う「文学散歩」、そして今年新たに始めた「図書館でホッとタイム」などです。

これまでの活動に対して、後援会は今年度2つの大きな表彰と感謝状を受けました。

一つは、10月25日（土）に秋田市御所野の秋田テルサで行われた「県民読書の日制定記念 読書のつどい2014秋」における「読書推進功労者表彰」。2個人4団体が表彰されたこの集まりに、後援会からは近藤巧会長が出席し、佐竹知事から表彰状を受け取りました。

もう一つは、10月31日（金）に明治大学駿河台キャンパスで開催された「第100回全国図書館大会」での「図書館を支援する団体等への感謝状」贈呈です。全国から図書館関係者が集まった記念大会において、全国103の団体に感謝状が渡されました。残念ながら日程の都合がつかず後援会としては欠席でしたが、秋田県から唯一受贈した大館市立中央図書館後援会を、私たちは心から誇りに思います。

改めて感謝の意を表します。図書館後援会の皆様、ありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしくお願いいたします。（陽）